

Pioneer *sound.vision.soul*

5.1ch対応・DSPユニット

DEQ-P9

取扱説明書

目次 4ページ

carrozeria

必ずお読みください

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- 表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



注意

このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



禁止

このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



必ず行う

このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

安全上のご注意 (別冊の「安全上のご注意」もお読みください。)

警告

[使用方法]

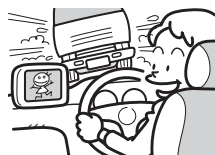
運転中に操作をしない



禁止

画面を長く見る必要がある複雑な機能は、自動車の運転中に操作をしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。操作は、必ず安全な場所に車を停車させて行ってください。また運転中、画面を注視する時間は必要最低限としてください。

走行中にDVDなどを見ない



禁止

運転者がDVDなどを見る時は、必ず安全な場所に車を停車させてください。走行中にDVDなどを見ると前方不注意となり、交通事故の原因となります。

[異常時の処置]

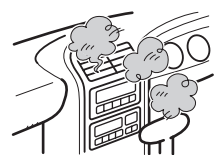
故障のまま使用しない



禁止

画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



禁止

万一、煙が出る・変なおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



必ず行う

ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

目次

— CONTENTS

必ずお読みください

安全のために必ずお守りください 2

- 絵表示について
- 安全上のご注意

はじめに

各部の名称 6

- メインユニット (例: DVH-P077)

ドルビーデジタル/DTS対応 7

本機のリセットについて 8

- リセットボタンについて

電源をONにする 9

音量を調節する 9

電源をOFFにする 9

音の調節

オーディオ調節のポイント 10

モードの切り換えかた 10

- オーディオ調節モードの切り換え
- オーディオ詳細設定モードの切り換え

SFCで音場を再現する 12

リスニングポジションを選ぶ 13

前後左右の音量バランスを

調節する 14

各ソースの音量の違いをそろえる . . . 15

ダイナミックレンジ

コントロールを使う 16

オリジナルの音質で聞く 17

ダウンミックス機能を使う 18

ドルビープロロジックIIを使う 19

- ドルビープロロジックIIモードの切り換え
- ミュージックモードの切り換え

接続したスピーカーの

設定をする 21

- 各スピーカーの有無やサイズを設定する
- サブウーファーの位相を切り換える

クロスオーバー周波数を設定する . . 23

スピーカーレベルを調節する 24

テストトーンでスピーカー

レベルを調節する 25

タイムアライメントを切り換える . . 26

タイムアライメントを調節する 27

オートイコライザーをON/OFFする 28

オートイコライジング

&タイムアライメントを行う 29

- オートイコライジング
&タイムアライメントを行う前に
- オートイコライジング
&タイムアライメントを行う

イコライザーカーブを使う 33

- イコライザーカーブを選ぶ
- 3バンドパラメトリック
イコライザーを調節する

初期設定

音の歪みを補正する	36
オーディオ設定をリセットする	37

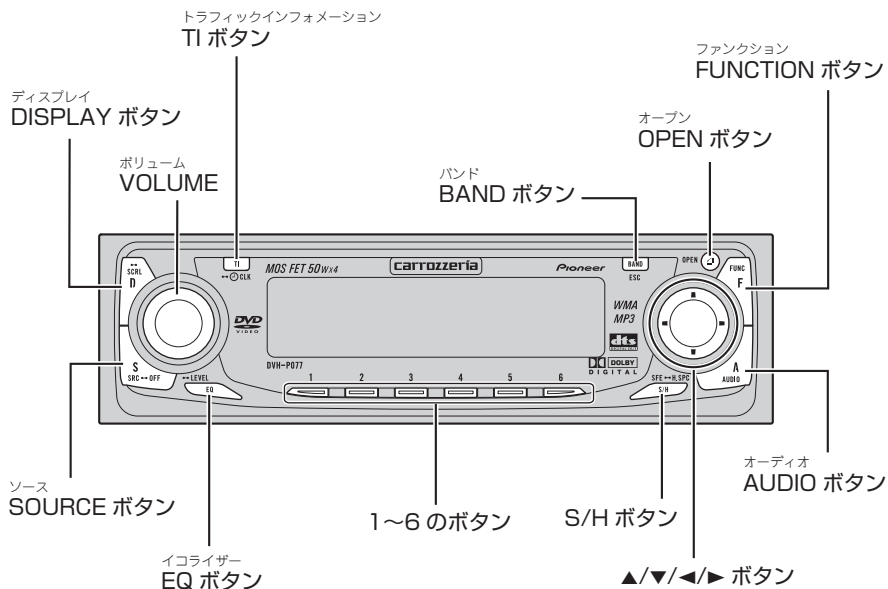
その他

故障かな？と思ったら	38
● 共通項目	
● オーディオ/DSP	
● DVDの設定	
● 光デジタル入力の設定	
保証書とアフターサービス	41
用語解説	42
おもな仕様	43

各部の名称

メインユニット (例：DVH-P077)

本機は、別売のメインユニットで操作を行います。
DVH-P077以外の製品をメインユニットとして使用して操作する場合は、それぞれの製品の取扱説明書をご覧ください。



本機の光デジタル入力について

本機は、2系統の光デジタル入力を装備していますが、それぞれの光デジタル入力端子に接続可能な製品には制限があります。下の表をご参照の上、正しく接続してください。接続を誤ると、正しく動作しないことがあります。

■ 本機とDVDヘッドユニットを組み合わせる場合

光デジタル入力1 (OPT. IN 1)	光デジタル入力2 (OPT. IN 2)
DVH-P077 AVIC-ZH900MD	AVX-P9DV (IP-BUSモードにて使用) AVX-P7DV (IP-BUS MAIN UNITモードにて使用) SDV-P7 XDV-P9 (II)
DVH-P007 DVH-P717	使用できません。

■ 本機とオーディオマスターユニット (AXM-P9) を組み合わせる場合

光デジタル入力1 (OPT. IN 1)	光デジタル入力2 (OPT. IN 2)
AVX-P7DV	SDV-P7 *1, *2 XDV-P9 (II)*1, *2
AVX-P9DV *3, *4 AVX-P7DV *3, *4 SDV-P7 *3, *4 XDV-P9 (II) *3, *4	AVIC-DRV250 (AVIC-DRV150) AVIC-DRV220 (AVIC-DRV120) AVIC-XH900 (AVIC-XH9) AVIC-ZH9MD (AVIC-H9)

*1 : AXM-P9で、デジタルソースとして設定

*2 : スタンドアロン (マスター) モードとして設定

*3 : AXM-P9で、DVDソースとして設定

*4 : IP-BUSモードとして設定

- ・ 本機にDVH-P077とAVX-P7を組み合わせたときに、AVIC-H900を接続した場合、AVIC-H900の光デジタル出力は、DEQ-P9の光デジタル入力2には接続できません。

ドルビーデジタル/DTSについて



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。



DTSは米国Digital Theater Systems, Inc.の登録商標です。

著作権について

本機は、マクロビジョンコーポレーションおよび他の権利保有者が所有する合衆国特許および知的所有権によって保護された、著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンコーポレーションの許可が必要であり、同社の許可がない限りは一般家庭及びそれに類似する限定した場所での視聴に制限されています。解析や改造は禁止されていますので行わないでください。

本機のリセットについて

本機を初期状態に戻すことができます。

リセットボタンについて

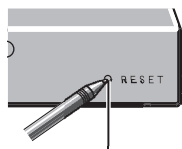
リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期状態（ご購入直後の状態）に戻ります。次のようなときに、リセットボタンを押してください。

- 接続が終わったとき。
- 本機が正しく動作しないとき。
- ディスプレイが正しく表示されないとき。

リセットボタンを押すと、本機の記憶（ポジションやタイムアライメント設定など）が消去されます。もう一度、セットしなおしてください。

1 ペン先などでリセットボタンを押す

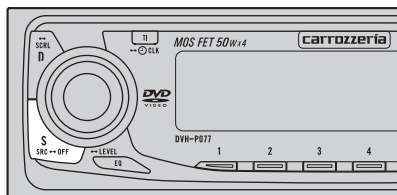
本機のマイコンが初期状態に戻ります。



リセットボタン

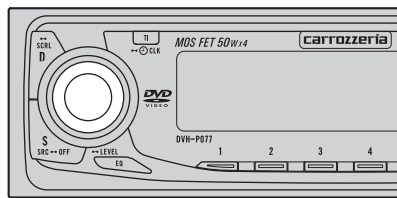
電源をONにする

- 1 SOURCE ボタンを押す
電源がONになります。

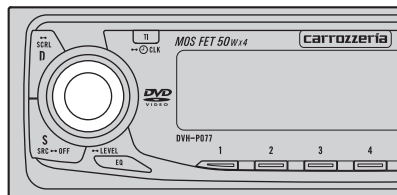


音量を調節する

- 1 VOLUME を押す
押すと手前に出てきます。
もう一度押すと、元に戻ります。

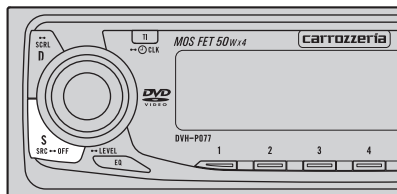


- 2 VOLUME を回す
右回し：大きくするとき
左回し：小さくするとき



電源をOFFにする

- 1 SOURCE ボタンを1秒以上押す
電源がOFFになります。



オーディオ調節のポイント

心地よい音の空間を手軽に演出したり、お好みに合わせてきめ細かく調節することができます。

次の順に設定や調節することで、きめ細かくお好みの音場を作り出すことができます。

1. 接続したスピーカーの設定をする (21 ページ)
2. リスニングポジションを選ぶ (13 ページ)
3. オートイコライジング&タイムアライメントを行う (28 ページ)
4. タイムアライメントを調節する (27 ページ)
5. テストトーンでスピーカーレベルを調節する (25 ページ)
6. クロスオーバー周波数を設定する (23 ページ)
7. スピーカーレベルを調節する (24 ページ)
8. 3バンドパラメトリックイコライザーを調節する (34 ページ)

モードの切り換えかた

音の調節は、オーディオ調節モードとオーディオ詳細設定モードを切り換えて操作します。

本機に DVH-P717、DVH-P007 および AXM-P7 を接続している場合、下記の機能は使用できません。

- ・ダウンミックスモード
- ・ドルビープロロジックIIモード
- ・タイムアライメント選択モード
- ・オートイコライジング&タイムアライメント

また、本機に DVH-P717、DVH-P007 および AXM-P7 を接続している場合、下記の機能の使用に制限があります。

- ・クロスオーバー周波数モード

オーディオ調節モードの切り換え

1 AUDIO ボタンを押して、オーディオ調節モードを切り換える

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

- リスニングポジションモード (13 ページ) → 音量バランス調節モード (14 ページ)
 → SLA モード (15 ページ)*¹ → ダイナミックレンジコントロールモード (16 ページ)*²
 → ダイレクトモード (17 ページ) → ダウンミックスモード (18 ページ)
 → リスニングポジションモードに戻る



・ オーディオ調節モードを解除するには、BAND ボタンを押します。(約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)

※¹ ラジオのFMを聞いているときは、SLA モードには切り換わりません。

※² DVD ディスクを再生しているとき以外は、ダイナミックレンジモードには切り換わりません。

オーディオ詳細設定モードの切り換え

1 AUDIO ボタンを 2 秒以上押して、オーディオ詳細設定モードにする

オーディオ詳細設定モードに切り換わります。



2 AUDIO ボタンを押して、オーディオ詳細設定モードを切り換える

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

- スピーカー設定モード (21 ページ) → クロスオーバー周波数モード (23 ページ)
- スピーカーレベル調節モード (24 ページ) → テストトーンモード (25 ページ)
- タイムアライメント選択モード (26 ページ)^{※1}
- タイムアライメント調節モード (27 ページ)^{※1}
- オートイコライザーモード (28 ページ)^{※2}
- 3バンドパラメトリックイコライザーモード (34 ページ)
- スピーカー設定モードに戻る

・ オーディオ詳細設定モードを解除するには、BAND ボタンを押します。

※¹ リスニングポジションモードでF/RかF/Lを選んていないと、タイムアライメント調節モードには切り換わりません。

※² オートイコライジング&タイムアライメントを行っていない場合は、オートイコライザーモードは操作できません。

SFCで音場を再現する

SFCでは、実際にその演奏会場にいるかのようなリアルな音場を再現することができます。

SFC(Sound Field Control) について

演奏会場は、会場ごとに独特の雰囲気があります。これは、会場の広さや形状、残響特性が異なるため、直接音・初期反射音・残響音の長さや質が変化するためです。SFCには、このようなことを考慮した音場空間プログラムが設定されています。

1 S/H ボタンを押して、SFC モードを切り換える

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

MUSICAL → DRAMA → ACTION → JAZZ → HALL → CLUB → OFF
→ MUSICAL に戻る



MUSICAL

音楽ソフトやミュージカル系の映画の再生を楽しむのに適しています。

DRAMA

リアスピーカーの音と一体となって、1つの大きなスピーカーのように響くイメージで幅広いサラウンド感を再現します。また、直接音もしっかりと響き、ストーリー重視の映画を楽しむのに適しています。

ACTION

躍動感、スピード感に加え、爆発シーンの迫力を包み込むように再現します。アクションシーンの多い映画を楽しむのに適しています。

JAZZ

ジャズクラブでの音場を再現します。ライブ録音の音声などを楽しむのに適しています。

HALL

コンサートホールの音場を再現します。残響音豊かな響きでクラシック音楽などを楽しむのに適しています。

CLUB

クラブの音場を再現します。残響音が吸収されやすい音場を再現し、ビートの効いた音楽を楽しむのに適しています。

- ・ 2チャンネルのリニアPCMまたは2チャンネルのドルビーデジタルの音声で、5.1チャンネルに適したSFC (MUSICAL、DRAMA、ACTION) を選んだ場合、ドルビープロロジックIIをONにすることをおすすめします。また、2チャンネルに適したSFC (JAZZ、HALL、CLUB) を選んだ場合、ドルビープロロジックIIをOFFにすることをおすすめします。

リスニングポジションを選ぶ

乗車位置や人数に合わせて、リスニングポジション（聞く位置）を選ぶことで、音像の定位を適切に補正することができます。

リスニングポジションについて

リスニングポジションは、座席位置や人数に合わせて、自動的に各スピーカーから出る音の遅延時間とレベルを調節する機能です。SFCと組み合わせることで、全身を包むような豊かな音場を体感することができます。

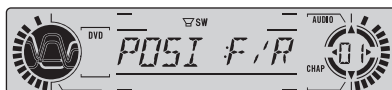
1 AUDIO ボタンを押して、リスニングポジションモードを選ぶ



2 ▲/▼/◀/▶ ボタンを押して、リスニングポジションを選ぶ

- ▶：右ハンドル車に運転者のみがいるとき
- ◀：左ハンドル車に運転者のみがいるとき
- ▲：同乗者が助手席にいるとき
- ▼：同乗者が後部座席にいるとき

同じボタンを押すごとに、ON/OFFが切り換わります。



3 BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ タイムアライメント (26、27ページ) を調節するには、リスニングポジションをF/RかF/Lのいずれかに設定してください。

前後左右の音量バランスを調節する

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

- 1** AUDIO ボタンを押して、音量バランス調節モードを選ぶ



- 2** ▲または▼ボタンを押して、前後の音量バランスを調節する

▲：前を強めるとき

▼：後ろを強めるとき

前後のバランスは、F25～R25の範囲で調節できます。



前後のバランスはF25～R25の範囲で調節できます。

- 3** ◀または▶ボタンを押して、左右の音量バランスを調節する

▶：右を強めるとき

◀：左を強めるとき

左右のバランスは、L25～R25の範囲で調節できます。



左右のバランスはL25～R25の範囲で調節できます。

- 4** BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

各ソースの音量の違いをそろえる

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FMの音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。

1 SOURCE ボタンを押して、FMを受信し、FMの音量を確かめる

2 SOURCE ボタンを押して、調節したいソースに切り換える

3 AUDIO ボタンを押して、SLAモードを選ぶ



4 ▲または▼ボタンを押して、レベルを調節する

▲：レベルを大きくするとき

▼：レベルを小さくするとき

レベルは-4から+4の範囲で調節できます。



レベルは-4~+4の範囲で調節できます。

5 BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ SLAとはSource Level Adjuster (ソース レベル アジャスター) の略です。
- ・ FMの音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FMを聞いているときは、SLAモードには切り換わりません。
- ・ AM、テレビ、DVD、CD、External (エクスターナルユニット)、AUX (外部機器)、AV (ビデオ入力) のそれぞれの音量差を調節することができます。なお、DVDと別売のDVDプレーヤー、ビデオCD・CDとMP3/WMA、External1とExternal2、およびAMと交通情報は同じ設定になります。

ダイナミックレンジコントロールを使う

ダイナミックレンジとは、一番大きな音と一番小さな音との幅のことです。ダイナミックレンジコントロールは、この幅を圧縮することで、音量を下げた楽しむ場合に小さな音も聞きとりやすくすることができます。

- 1** AUDIO ボタンを押して、ダイナミックレンジコントロールモードを選ぶ



- 2** ▲ ボタンを押して、ダイナミックレンジコントロールをONにする

▼ ボタンでOFFになります。



- 3** BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ダイナミックレンジコントロールの効果を得られるのは、ドルビーデジタル音声だけです。
- ・DVDディスクを再生しているとき以外は、ダイナミックレンジコントロールモードには切り換わりません。

オリジナルの音質で聞く

各種オーディオの設定を無効にすることができます。調整したオーディオ設定の効果を確かめるのに便利です。

- 1 AUDIO ボタンを押して、ダイレクトモードを選ぶ



- 2 ▲ ボタンを押して、ダイレクトモードをONにする

▼ ボタンで OFF になります。



- 3 BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ダイレクトがONの間は、音量調節 (VOLUME と ATT ボタン) とドルビープロロジックIIのみ有効です。その他のオーディオ調節はできません。
- ・2チャンネルのリニアPCMまたは2チャンネルのドルビーデジタルの音声で、ダイレクトモードをON にすると、フロントスピーカー (左右) 以外から音声は出力されません。

ダウンミックス機能を使う

マルチチャンネルの音声を足し合わせて (ダウンミックス)、2チャンネルの音声で再生することができます。

本機に DVH-P717 および DVH-P007 を接続している場合、この機能は使用できません。

1 AUDIO ボタンを押して、ダウンミックスモードを選ぶ



2 ◀または▶ ボタンを押して、ダウンミックスの設定を選ぶ

設定の選択項目「Lo/Ro」、「Lt/Rt」が表示されます。

表示	内容
Lo/Ro	オリジナルの音声、サラウンド成分のようなチャンネルモードを含まない場合、音声をステレオミックスします。
Lt/Rt	サラウンド成分を復元(デコード)できるようにダウンミックスします。

3 BAND ボタンを押して、オーディオ調節モードを解除する

- ・ DVD オーディオには、ダウンミックスを禁止しているものがあります。その場合は、ダウンミックスを設定しても実行されません。

ドルビープロロジックIIを使う

ドルビープロロジックIIを使うと、2チャンネルの音声を5チャンネルに拡張して全体域で再生することができます。オリジナルの録音の空間情報から、より立体的なサラウンド空間を作り出す先進的な機能です。従来のドルビープロロジックに比べ、音の定位がより鮮明になり、音の移動も自然に再生されるので、より立体的な音場を楽しむことができます。

本機にDVH-P717およびDVH-P007を接続している場合、この機能は使用できません。

ドルビープロロジックIIのON/OFFについて

2チャンネルのリニアPCM または 2チャンネルのドルビーデジタルの音声で、5.1チャンネルに適したSFC (MUSICAL、DRAMA、ACTION) を選んだ場合、ドルビープロロジックIIをONにすることをおすすめします。また、2チャンネルに適したSFC (JAZZ、HALL、CLUB) を選んだ場合、ドルビープロロジックIIをOFFにすることをおすすめします。

ドルビープロロジックIIモードの切り換え

- 1 S/H ボタンを2秒以上押して、ドルビープロロジックII モードを選ぶ



- 2 S/H ボタンを押して、好みのモードを選択する

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



PLII :OFF → PLII :MOV → PLII :MUS → PLII :MAT → PLII :OFF に戻る

ドルビープロロジックIIのモードについて

ムービー (MOV)

映画やTVドラマなどのステレオ音声を、5.1チャンネル録音に迫る立体的な音で楽しめます。

ミュージック (MUS)

広く深い音場を表現し、音楽などを臨場感豊かに楽しめます。

ミュージックモードのパラメーターを調整することで、好みに合わせた空間表現を得ることができます (20ページ)。

マトリクス (MAT)

方向性強調回路がオフになるため、シンプルなサラウンド再生になります。FMやTVなどのステレオ放送で受信状態が不安定な場合に向いています。

PL II :OFF

ドルビープロロジックIIをOFFにします。

- ・ 2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジックIIをONにすると、次のような現象が起こることがあります。
 - * センタースピーカーの設定を「SML」や「LRG」にしている場合、センタースピーカーだけ音が出力されることがあります。また、センタースピーカーを接続しないと、音が出力されないことがあります。
- ・ ドルビープロロジックIIは、48kHzサンプリング周波数で動作します。その他のステレオソース値では効果がありません。

ミュージックモードの切り換え

- 1** ドルビープロロジックIIモードにして、ミュージック (MUS) を選ぶ (19ページ)



- 2** ▶ ボタンを押して、好みのモードを選択する

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

PANO → DIME → CENT → PANO に戻る



- 2** ▲または▼ボタンを押して、好みのモードを調節する

項目	設定/調節範囲
パノラマ (PANO)	ON/OFF
ディメンション (DIME)	-3~+3
センター幅 (CENT)	0~7

ミュージックモードについて

パノラマ (PANO)

フロントのステレオイメージをサラウンドスピーカーまで拡張して、包み込みの効果を大きくします。

ディメンション (DIME)

広音場の位置をフロント側、リア側に細かく調整します。-3~+3の間で調整します。+はフロント側に、-はリア (サラウンド) 側に音を移動します。

センター幅 (CENT)

センターの音を、フロントのLRチャンネルとセンターチャンネルの3つのスピーカーにどのように振り分けるかを「0」~「7」の間で設定します。推奨は3で、ほとんどの録音に適しています。0は、センタースピーカーだけでセンターの音を再生します。7は、通常のステレオと同様にセンターの音をフロントのLRに振り分けます。

接続したスピーカーの設定をする

各スピーカーの有無やサイズを設定する

スピーカーの接続の有無や接続したスピーカーのサイズ(低音域再生能力)の設定をすることができます。この設定により、スピーカーを接続していないために再生できないチャンネルの音を他のスピーカーから出力させたり、より再生に適したスピーカーから低音を出力させることができます。

スピーカーサイズについて

- ・スピーカーサイズ設定は、100 Hz以下の周波数帯域を再生可能かどうかが目安になります。再生可能な場合は「LARGE」に、再生不可能な場合は「SMALL」に設定してください。
- ・Auto EQ&TAを行うときは、スピーカーの設定はON/OFFだけ行ってください。

1 AUDIO ボタンを2秒以上押して、スピーカー設定モードを選ぶ



2 ◀または▶ ボタンを押して、設定したいスピーカーを選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

- FRONT (フロントスピーカー) ↔ CENT (センタースピーカー)
- ↔ REAR (リアスピーカー) ↔ SUB.W (サブウーファー)
- ↔ PHASE (サブウーファー位相切り換え)*1



3 ▲または▼ ボタンを押して、スピーカーの有無やサイズを設定する

各スピーカーの設定は、次の中から選ぶことができます。

スピーカーの種類	設定
フロント	SML/LRG
リア	OFF/SML/LRG
センター	OFF/SML/LRG
サブウーファー	OFF/ON
サブウーファー 位相切り換え	NOR/REV

4 BAND ボタンを押して、オーディオ詳細設定モードを解除する



- ・ 接続していないスピーカーの設定は、必ず「OFF」にしてください。
- ・ サブウーファーを接続していない場合、フロントまたはリアスピーカーに低音再生能力がある限り、スピーカー設定は「LRG」を選んでください。フロントとリア両方のスピーカー設定を「SML」にすると、低音が著しく不足した感じになることがあります。
- ・ 2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジックIIをONにすると、次のような現象が起こることがあります。
 - * センタースピーカーの設定を「SML」や「LRG」にしている場合、センタースピーカーだけ音が出力されることがあります。また、センタースピーカーを接続しないと、音が出力されないことがあります。

*¹ サブウーファーをOFFにすると、サブウーファー位相切り換えモードは選択できません。

サブウーファーの位相を切り換える

サブウーファーからの低音域の出力を調節しても低音域が良く聞こえてこなかったり、逆に小さくなったように感じた場合、他のスピーカーの低音域と打ち消し合っていることがあります。位相を切り換えることで、この現象を防ぎ低音域を聞きやすくすることができます。

- 1** AUDIO ボタンを2秒以上押して、スピーカー設定モードを選ぶ



- 2** ◀または▶ ボタンを押して、サブウーファー位相切り換えモードを選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

- FRONT (フロントスピーカー) ↔ CENT (センタースピーカー)
- ↔ REAR (リアスピーカー) ↔ SUB.W (サブウーファー)
- ↔ PHASE (サブウーファー位相切り換え)*¹



- 3** ▲または▼ ボタンを押して、サブウーファーの位相を切り換える

- ▲ : NOR (正相)
- ▼ : REV (逆相)



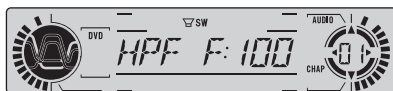
- 4** BAND ボタンを押して、オーディオ詳細設定モードを解除する

*¹ サブウーファーをOFFにすると、サブウーファー位相切り換えモードは選択できません。

クロスオーバー周波数を設定する

クロスオーバー周波数は、サブウーファーやスピーカーサイズを「SML」に設定したスピーカーの再生音域を設定します。サブウーファーからは、選んだ周波数より低い音域が出力されます。また、「SML」に設定したスピーカーからは、選んだ周波数より高い音域が出力され、音量が抑えられた低い音域はサブウーファーから出力されるようになります。サブウーファーを接続していない場合、音量が抑えられた低い音域は「LRG」に設定したスピーカー（フロントまたはリア）から出力されるようになります。

- 1 AUDIO ボタンを2秒以上押してから、AUDIO ボタンを押し、クロスオーバー周波数モードを選ぶ



- 2 ◀または▶ ボタンを押して、スピーカーを選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

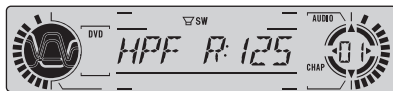
F (フロントスピーカー) ↔ C (センタースピーカー) ↔ R (リアスピーカー)
↔ S (サブウーファー)



本機にDVH-P717およびDVH-P007を接続している場合、スピーカーの選択はできません。

- 3 ▲または▼ ボタンを押して、クロスオーバー周波数を選ぶ

63、80、100、125、160、200 (Hz)の中から選ぶことができます。



- 4 BAND ボタンを押して、オーディオ詳細設定モードを解除する

・ サブウーファーのLPFと、スピーカーサイズを「SML」に設定したスピーカーのHPF両方のクロスオーバー周波数を設定します。サブウーファーが「OFF」で、他のスピーカーのサイズが「LRG」や「OFF」に設定されている場合、クロスオーバー周波数の設定は無効になります。

スピーカーレベルを調節する

テストトーンで行った各スピーカーからの出力レベルを、実際の音声を聞きながらもう一度調節することができます。

- 1** AUDIO ボタンを2秒以上押してから、AUDIO ボタンを押し、スピーカーレベル調節モードを選ぶ



- 2** ◀または▶ ボタンを押して、調節したいスピーカーを選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

FRT-L (フロントスピーカー (左)) ↔ CENT (センタースピーカー)
 ↔ FRT-R (フロントスピーカー (右)) ↔ RER-R (リアスピーカー (右))
 ↔ RER-L (リアスピーカー (左)) ↔ SUB.W (サブウーファー) ↔ FRT-L



- 3** ▲または▼ ボタンを押して、レベルを調節する

▲ : レベルを大きくするとき

▼ : レベルを小さくするとき

レベルは-10から+10の範囲で調節できます。



- 4** BAND ボタンを押して、オーディオ詳細設定モードを解除する

- ・ このモードで調節した出力レベルは、テストトーンモード (25 ページ) で調節したレベルと同じ値になります。
- ・ スピーカー設定モード (21 ページ) で「OFF」に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

テストトーンでスピーカーレベルを調節する

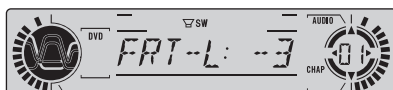
テストトーンを聞きながら、各スピーカーからの出力レベルを調節し、スピーカーシステム全体のバランスを整えます。

- 1** AUDIO ボタンを2秒以上押してから、AUDIO ボタンを押し、テストトーンモードを選ぶ



- 2** ▶ ボタンを押して、テストトーン出力を開始する

約2秒ずつ、次の順で切り換わり続けます。



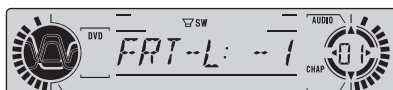
FRT-L (フロントスピーカー (左)) → CENT (センタースピーカー)
→ FRT-R (フロントスピーカー (右)) → RER-R (リアスピーカー (右))
→ RER-L (リアスピーカー (左)) → SUB.W (サブウーファー) → FRT-L へ戻る

- 3** ▲または▼ ボタンを押して、レベルを調節する

▲：レベルを大きくするとき

▼：レベルを小さくするとき

レベルは-10から+10の範囲で調節できます。



- 4** ◀ ボタンを押して、テストトーン出力を停止する



- 5** BAND ボタンを押して、オーディオ詳細設定モードを解除する

- ・ このモードで調節した出力レベルは、スピーカーレベル調節モードで調節したレベルと同じ値になります。
- ・ スピーカー設定モード(21ページ)で「OFF」に設定したスピーカーには切り換わりません。
- ・ レベルを調節している間、テストトーンは次のスピーカーには切り換わりません。

タイムアライメントを切り換える

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することができる機能です。ここでは、出荷時にあらかじめ設定されたタイムアライメントを選択するか、お好みで設定をしたタイムアライメントを選択するかを選ぶことができます。

本機に DVH-P717 および DVH-P007 を接続している場合、この機能は使用できません。

1 AUDIO ボタンを押し、タイムアライメント選択モードを選ぶ



2 ◀または▶ ボタンを押して、タイムアライメントを選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

INITIAL ↔ CUSTOM ↔ Auto TA ↔ OFF

タイムアライメントの種類	内容
INITIAL	出荷時に設定されたタイムアライメントの初期値です。
CUSTOM	お好みに合わせて調節したタイムアライメントです。
Auto TA	オートイコライジング&タイムアライメント機能を使って設定をしたタイムアライメントです (28 ページ)。
OFF	タイムアライメントを OFF にします。

- ・ オートイコライジング&タイムアライメント (29 ページ) を行っていない場合は、Auto TA を選択できません。

3 BAND ボタンを押して、タイムアライメント選択モードを解除する

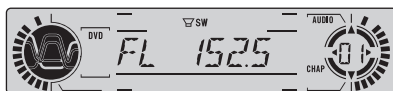
タイムアライメントを調節する

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節することができます。リスニングポジション (13 ページ) を設定することで自動的に設定されますが、タイムアライメントではさらに厳密な調節をすることができます。

タイムアライメントを調節するには

- ・リスニングポジションモード (13 ページ) で F/L か F/R を選んでいないと、タイムアライメント調節モードには切り換わりません。

- 1** AUDIO ボタンを 2 秒以上押してから、AUDIO ボタンを押し、タイムアライメント調節モードを選ぶ



- 2** ◀または▶ ボタンを押して、調節したいスピーカーを選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

- FL (フロントスピーカー (左)) ↔ C (センタースピーカー)
- ↔ FR (フロントスピーカー (右)) ↔ RR (リアスピーカー (右))
- ↔ RL (リアスピーカー (左)) ↔ SW (サブウーファー) ↔ FL



- 3** ▲または▼ ボタンを押して、距離を調節する

- ▲ : 距離を遠くするとき
- ▼ : 距離を近くするとき

距離は 0.0 cm から 500.0 cm の範囲で調節できます。



- 4** BAND ボタンを押して、オーディオ詳細設定モードを解除する

- ・スピーカー設定モード (21 ページ) で「OFF」に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

オートイコライザーをON/OFFする

オートイコライジング&タイムアライメントで設定された値をON/OFFします。

本機にDVH-P717およびDVH-P007を接続している場合、この機能は使用できません。

オートイコライザーを選択するには

- ・オートイコライジング&タイムアライメントでイコライザーを行っていない場合は、オートイコライザーモードは操作できません。

- 1 AUDIO ボタンを2秒以上押してから、AUDIO ボタンを押して、オートイコライザーモードを選ぶ



- 2 ▲ ボタンを押して、オートイコライザーをONにする

▼ ボタンでOFFになります。



- 3 BAND ボタンを押して、オーディオ詳細設定モードを解除する

オートイコライジング&タイムアライメントを行う

車室内の音響特性を自動的に計測して、最適になるように自動補正することができます。

本機にDVH-P717およびDVH-P007を接続している場合、この機能は使用できません。

オートイコライジング&タイムアライメントを行う前に

Auto EQ&TA (オートイコライジング&タイムアライメント) を行う前に必ずお読みください。

Auto EQ&TA (オートイコライジング&タイムアライメント) を行う前に、リスニングポジションとスピーカーの設定を終わらせてください。



運転中に Auto EQ&TA を行わない



禁止

自動車が走行中に Auto EQ&TA を行わないでください。Auto EQ&TA 機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因になることがあります。

スピーカー破損防止について

次の状態で Auto EQ&TA を行うと、スピーカーが破損する恐れがあります。Auto EQ&TA を行う前に、よく確認してください。

- スピーカーの接続を誤っている場合
(例：サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合)
- スピーカーの耐入力を超える出力のパワーアンプを接続している場合

Auto EQ&TA 機能について

車室内空間は、その広さや複雑な形状、材質により、ホームオーディオに比べ、一般的に音響特性が大きく乱れています。このような車室内の音響特性を補正するためにイコライザーを使用しますが、測定器などを使用せずに設定するのはかなり困難な作業になります。本機の Auto EQ&TA 機能は、車室内の音響特性を自動的に測定し、そのデータに基づいて、車室内の音響特性が乱れの少ない滑らかな特性に近づくように自動的に補正します。(イコライザーカーブを呼び出したときは、Auto EQ&TA により乱れの少ない滑らかな特性になったうえでイコライザーカーブが設定されますので、より効果的になります。) また、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を自動的に測定し、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調整します。

Auto EQ&TAを行う前にお読みください

- Auto EQ&TAは、なるべく静かなところで、車のエンジンおよびエアコンやヒーターを止めて行ってください。また、携帯電話や自動車電話などを車載している場合は、電話を車外へ持ち出すか電源を切ってから Auto EQ&TA を行ってください。計測音以外の音(車周辺の騒音、エンジン音、電話の着信音など)によって、車室内の音響特性が正しく測定できないことがあります。
- Auto EQ&TAは、必ず付属のマイクを使用して行ってください。付属のマイク以外のマイクでは、Auto EQ&TAが実行できなかったり、車室内の音響特性が正しく測定できません。
- フロントスピーカーが接続されていない場合は、Auto EQ&TAが実行できません。
- フロントスピーカーをミュートしている場合は、Auto EQ&TAが実行できません。
- 入力レベルコントロール付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプの入力レベルコントロールを下げていると、Auto EQ&TAが実行できない場合があります。パワーアンプの入力レベルコントロールは推奨位置に合わせてください。
- ローパスフィルター付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプのローパスフィルターはOFFにして測定してください。また、パワードサブウーファー内蔵のローパスフィルターは、遮断周波数を最も高い値に設定してください。
- Auto EQ&TA測定時に算出したタイムアライメントの値は、次の場合に実際の距離と異なることがあります。計測状況によりコンピューターが算出した正確な遅延時間を基に設定された距離です。そのままの値でご使用ください。
 - * 車室内の反射音が直接音より強く、かつ遅延を生じている場合。
 - * パワードサブウーファーや外部アンプのローパスフィルターの影響により、低音に遅延が生じている場合。
- Auto EQ&TAを行うと、各モードの内容が次のように変更されます。
 - * 前後左右の音量バランス調節の設定がリセットされ、初期設定に戻ります。
 - * イコライザーカーブは、フラット (EQ FLAT) になります。
 - * リスニングポジションセレクターは、Front Right に設定されます。(ただし、Front Left に設定していたときだけは、Front Left のままになります。)
 - * サブウーファーを接続している場合、サブウーファー出力とリアハイパスフィルターの設定が調節されます。(サブウーファー出力をOFFにしても、自動的にONになり調節されます。)

Auto EQ&TAの調節内容について

- 一度 Auto EQ&TA を行ったあとに、再度 Auto EQ&TA を行うと、前の Auto EQ&TA の調節内容は消去されます。

オートイコライジング&タイムアライメントを行う

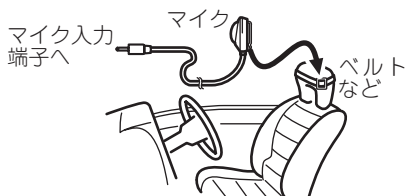
1 計測する環境を整える

以下のように計測する環境を整えてください。

- 静かな所に車を停車させる
- ドア、窓、サンルーフなどを閉める
- 車のエンジンを停止させる
- エアコンやヒーターをOFFにする

2 マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に付属のマイクを前向きに固定してください。



- ・ マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がる恐れがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。

3 車のエンジンスイッチをACCまたはONにする

- ・ 車のエアコンやヒーターがONになっている場合は、OFFにしてください。エアコンやヒーターのファンの騒音によって Auto EQ&TA が実行できないことがあります。

4 SOURCE ボタンを押して、メインユニットおよび本機の電源を入れる

5 乗車位置を決定する

AUDIO ボタンを押してリスニングポジションモードを選び、マイクをセットした座席を乗車位置に設定してください。

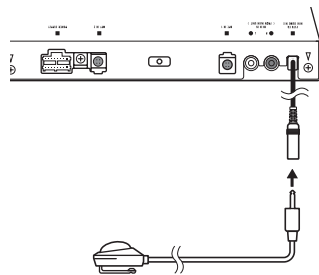
- ・ 乗車位置を F/R または F/L 以外に設定したときは、Auto EQ&TA を始めると、強制的に F/R に再設定されます。

6 メインユニットおよび本機の電源を切る

SOURCE ボタンを1秒以上押し、電源を切ってください。

7 EQ ボタンを2秒以上押し、Auto EQ&TA 設定モードにする**8** マイクを本機に接続する

付属のマイクをマイク入力端子 (オートEQ & オートTA 用マイク端子) に接続してください。

**9** ▲ ボタンを押して、Auto EQ&TA を始める

- ・ Auto EQ&TA を始めてから測定が終了するまでに、約8分かかります。測定時間は、周囲の騒音状態、車両形状、スピーカーの数などにより変わります。

10 車外に出る

10秒のカウントダウンが始まるので、10秒以内に車外に出て、ドアを閉めてください。計測音(ノイズ)が各スピーカーから出力され、Auto EQ&TAが始まります。

11 Auto EQ&TAが自動的に終了する

Auto EQ&TAが正常に行われると、“COMPLETE”と表示されます。



- ・ Auto EQ&TA を途中でやめたいときは、BAND ボタンを押してください。Auto EQ&TA 設定を強制的に解除して、電源 OFF になります。
- ・ マイクをセットする位置により、Auto EQ&TA の調節内容が変わります。お好みにより、助手席にセットすることもできます。
- ・ マイクはグローブボックスなどに、大切に保管してください。直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形、変色、故障の原因になる恐れがあります。

イコライザーカーブを使う

イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されているイコライザーカーブの中から、お好みのイコライザーカーブを選ぶことができます。

CUSTOM1 について

“CUSTOM1”には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。(External1 と External2 は、同じ設定になります。)

CUSTOM2 について

“CUSTOM2”は、すべてのソースに共通したイコライザーカーブで、お好みに合わせて調節することができます。

EQ FLAT について

イコライザーによる音の補正はされていません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えることで、設定したイコライザーカーブの効果を確認することができます。

1 EQ ボタンを押して、イコライザーカーブを切り換える

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



POWERFUL → NATURAL → VOCAL → EQ FLAT → CUSTOM1 → CUSTOM2
→ SPR-BASS (SUPER-BASS) → POWERFULに戻る

3バンドパラメトリックイコライザーを調節する

“CUSTOM1”と“CUSTOM2”は、フロント/リア/センターのイコライザーカーブを別々に調節することができます。各スピーカーのバンドごとに中心周波数を設定し、レベル調節やカーブの傾きの切り換えを行うことができます。

イコライザーの調節について

センタースピーカーは、音像を定位させるのに影響が大きいスピーカーです。このため、他のスピーカーと同時にバランスをとるのは、とても難しい作業です。全体のバランスをとるため、2チャンネルの音声（CD など）を再生し、センターを除く全てのスピーカーのバランスを調節した後、5.1チャンネルの音声（ドルビーデジタルやDTS）を再生し、センタースピーカーを全体のバランスに合わせるように調節すると、スムーズに行うことができます。

中心周波数について

各バンドの中心周波数は、26種類の周波数の中から選ぶことができます。周波数は、1/3オクターブずつのステップで切り換えることができますが、各バンドの中心周波数の間隔を1オクターブ未満に設定することはできません。

- 1** AUDIO ボタンを2秒以上押してから、AUDIO ボタンを押し、イコライザー調節モードを選ぶ



- 2** ◀または▶ ボタンを押して、調節したい項目を選ぶ

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

スピーカー ↔ バンド ↔ 中心周波数 ↔ レベル ↔ カーブの傾き



- 3** ▲または▼ ボタンを押して、調節したいスピーカーを選ぶ

FRT (フロント)、CEN (センター)、RER (リア) の中から選ぶことができます。



- 4** ▶ ボタンを押してから、▲または▼ ボタンを押して、バンドを選ぶ

LOW (低音)、MID (中音)、HI (高音) の中から選ぶことができます。



5 ▶ ボタンを押してから、▲または▼ボタンを押して、中心周波数を選ぶ

▲：高い周波数を選ぶとき

▼：低い周波数を選ぶとき

40、50、63、80、100、125、160、200、250、315、400、500、630、800、1k、1.2k、1.6k、2k、2.5k、3.1k、4k、5k、6.3k、8k、10k、12k (Hz) の中から選ぶことができます。



6 ▶ ボタンを押してから、▲または▼ボタンを押して、レベルを調節する

▲：強めるとき

▼：弱めるとき

レベルは-6から+6の範囲で調節できます。



7 ▶ ボタンを押してから、▲または▼ボタンを押して、カーブの傾きを選ぶ

▲：WID (緩やかな傾き)

▼：NAR (急な傾き)



8 手順2～7を繰り返して、各スピーカーの各バンドを同様に調節する

9 BAND ボタンを押して、オーディオ詳細設定モードを解除する

- ・ スピーカー設定モード (21 ページ) で「OFF」に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

音の歪みを補正する

イコライザーカーブの調整による音の歪みを抑制することができます。

- 1 電源がOFFのときに、FUNCTION ボタンを2秒以上押してから、FUNCTION ボタンを押して、デジタルアッテネーターモードを選ぶ



- 2 ▲または▼ボタンを押して、デジタルアッテネーターの設定を選ぶ

- ▲ : HI
- ▼ : LOW



- 3 BAND ボタンを押して、初期設定モードを解除する

- ・ イコライザーカーブの設定で、レベルを高く設定した周波数の音域が歪むことがあります。イコライザーカーブの設定で音が歪んだように感じたときは、「LOW」に切り換えてください。(通常は音質が優れている「HI」のままお使いください。)

オーディオ設定をリセットする

オーディオ設定を出荷時の状態に戻すことができます。

リセットされる設定について

次の設定がリセットされます。

- ・オーディオ調節モードのドルビープロロジックIIの設定
- ・オーディオ詳細設定モードのすべての設定
- ・オートタイムイコライジング&アライメント設定モードで調節された値

次の設定はリセットされません

- ・ドルビープロロジックIIを除く、オーディオ調節モードのすべての設定
- ・ボリューム
- ・初期設定モードのデジタルアッテネーターモードおよびTELミュート/アッテネーターモードの設定

- 1 電源がOFFのときにFUNCTION ボタンを2秒以上押してからFUNCTION ボタンを押して、オーディオ設定リセットモードを選ぶ



- 2 ▲ ボタンを押して、リセットを選ぶ

確認のため“RESET OK?”が表示されます。オーディオ設定をリセットしないときは、BAND ボタンを押します。



- 3 ▶ ボタンを押して、リセットの確認を行う

再度確認のため“REALLY?”が表示されます。オーディオ設定をリセットしないときは、BAND ボタンを押します。



- 4 もう一度 ▲ ボタンを押して、リセットを行う

“COMPLETE”が表示され、リセットが完了します。



- 5 BAND ボタンを押して、初期設定モードを解除する

故障かな?と思ったら

故障かな?と

思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。

チェックしても

直らないときは

本機をリセットしてください。(8ページ)

それでも

直らないときは

「保証書とアフターサービス」(41ページ)をお読みになり、修理を依頼してください。

共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクタが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。 (「取付説明書」参照)
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズを同じ容量のヒューズと交換してください。 (「取付説明書」参照)
音が出ない。	接続が間違っている。	正しく接続してください。 (「取付説明書」参照)
	音量を下げている。	音量を上げてください。 (9ページ)
	前後左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (14ページ)
音が出ないスピーカーがある。	スピーカーサイズの設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく設定してください。 (21ページ)
	スピーカーのレベル設定が極端に小さくなっている。	他のスピーカーのレベルとバランスをとってください。 (24ページ)
	センタースピーカーを接続していない状態で、センタースピーカーのサイズをSMALLやLARGEにしている。	センタースピーカーのサイズ設定をOFFにしてください。 (21ページ)

オーディオ/DSP

症状	原因	処置
スピーカーの調節ができない。	スピーカーのサイズ設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく設定してください。(21ページ)
タイムアライメントの調節ができない。	リスニングポジションの設定が間違っている。	リスニングポジションを正しく設定してください。(13ページ)
	スピーカーのサイズ設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく設定してください。(21ページ)
サブウーファーの位相が切り換えられない。	サブウーファーの設定がOFFになっている。	サブウーファーの設定をONにしてください。(21ページ)
低音域が聞こえない。	サブウーファーの設定がOFFで、それ以外のスピーカーのサイズ設定もOFFやSMALLになっている。	正しく設定してください。(サブウーファーを接続していない場合、フロントまたはリアスピーカーのサイズ設定は、LARGEにしてください。)(21ページ)
ドルビープロロジックIIをONにすると、音が出ないときがある。	センタースピーカーを接続していない状態で、センタースピーカーのサイズ設定をSMALLやLARGEにしている。	センタースピーカーのサイズ設定をOFFにしてください。(モノラル音声の場合、ドルビープロロジックIIをONにすると、センタースピーカーからのみ音を出ようになります。)(21ページ)
センタースピーカー以外のスピーカーから音が出ないときがある。	ドルビープロロジックIIがONになっている。	ドルビープロロジックIIをOFFにしてください。(モノラル音声の場合、ドルビープロロジックIIをONにすると、センタースピーカーからのみ音を出ようになります。)(19ページ)
ダイナミックレンジコントロールをONにしても効果がない。	再生しているソースがドルビーデジタル音声でない。	ドルビーデジタル音声にだけ有効な機能です。(16ページ)

DVDの設定

症状	原因	処置
DVDの音だけ出ない。	光デジタルケーブルが外れている。	光デジタルケーブルを正しく接続してください。 (「取付説明書」参照)
	DVDの出力設定が間違っている。	正しく設定してください。 (「DVDプレーヤーの取扱説明書」参照)

光デジタル入力の設定

症状	原因	処置
光デジタル入力1または光デジタル入力2に接続したソースの音が出ない。	光デジタル入力1 (OPT. IN1) と光デジタル入力2 (OPT. IN2) が逆に接続されている。	光デジタルラインを正しく接続してください。 (「取付説明書」参照)
	光デジタル入力に接続した製品のソースが、光デジタル信号に対応していない。	光デジタルに対応した製品かどうか確認してください。 (7ページ)

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。（性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

用語解説

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは最大5.1チャンネルの独立したマルチチャンネルオーディオを提供します。このシステムは、映画館にサラウンドシステムとして装備されているドルビーデジタルと同一のシステムです。



ドルビーデジタルを楽しむには、本機の光デジタル入力端子とドルビーデジタル対応のDVDプレーヤーなどの光デジタル出力端子を接続する必要があります。

ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIは、2チャンネル信号を5.1チャンネルに拡張することができます。CDのような通常のステレオ音楽でも立体音場効果、包囲感、より明確な定位感を実現します。



ダイナミックレンジコントロール

ドルビーデジタルには音の強弱の幅を圧縮する機能があります。この機能がダイナミックレンジコントロールです。ダイナミックレンジの広い音声を小さな音量で聞く場合でも、良好な聴感が得られるようにコントロールします。

光デジタル入力

音声信号をデジタル信号で受け取ることで、音質の劣化を最小限に抑えることができます。また、デジタル信号を光で受け取るようにしたものが光デジタル入力です。(DVDプレーヤーなど出力側には、光デジタル出力が必要です。)

DTS

Digital Theater Systemsの略です。DTSは、サラウンドシステムで、最大6チャンネルの独立したマルチチャンネルオーディオを提供します。



DTSディスクを楽しむには、本機の光デジタル入力端子とDTS対応DVDプレーヤーなどの光デジタル出力端子を接続する必要があります。

リニアPCM (LPCM)

音楽CDに用いられている信号記録方式で、Linear Pulse Code Modulationの略です。音楽CDでは、44.1 kHz/16 bitで記録されているのに対し、DVDでは、48 kHz/16 bit～96 kHz/24 bitで記録されているため、音楽CDよりも高音質の再生が可能です。

おもな仕様

共通部

使用電源：

DC 14.4 V (10.8～15.1 V 使用可能)

アース方式：

マイナスアース方式

最大消費電流：

10 A

外形寸法：

237 (W)×29 (H)×171 (D) mm

質量：

1.10 kg (コード含まず)

オーディオ/DSP部

最大出力：

50 W × 5

定格出力：

22 W × 5

負荷インピーダンス：

4 Ω

プリアウト

最大出力レベル：5.0 V

出力インピーダンス：100 Ω

デコーダー：

リニアPCM/ドルビーデジタル/ドルビー
プロロジックII/DTS

サブウーファー：

クロスオーバー周波数：

63/80/100/125/160/200 Hz

レベル：

±10 dB

スピーカー設定：

タイムアライメント：

0.00～5.00 m (2.5 cm)/STEP

調整幅：

±10 dB

イコライザー：

バンド：3バンド

周波数：40/50/63/80/100/
125/160/200/250/
315/400/500/630/800/
1k/1.25k/1.6k/2k/2.5k/
3.15k/4k/5k/6.3k/8k /
10k/12.5kHz

ゲイン：±12 dB

クロスオーバー周波数：

63/80/100/125/160/200 Hz

付属品

コードユニット	：1式
取付キット	：1式
取付ネジ類	：1式
取扱説明書	：1
取付説明書	：1
AEQマイク	：1
安全上のご注意	：1
保証書	：1
ご相談窓口・修理窓口のご案内	：1

- ・上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。



この説明書の印刷には、植物性大豆インキを使用しています。

パイオニア製品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店へお問い合わせください。なお、修理をご依頼される場合は、取扱説明書の「故障かな？と思ったら」を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

● ホームページ

商品に関する「よくあるお問い合わせ」FAQのご案内 <http://www.pioneer.co.jp/support/faq/index.html>
 <下記窓口へのお問い合わせ時のご注意>

市外局番「0070」で始まる ☎ フリーフォン、および「0120」で始まる ☎ フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからはご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

製品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付 月曜～金曜 9：30～17：00、土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～17：00（弊社休業日は除く）

- カーオーディオ／カーナビゲーション製品のご相談窓口 : ☎ **0070-800-8181-11**
: 【一般電話】 **03-5496-8016**
- 家庭用オーディオ/ビジュアル製品 (PDP・DVDなど)のご相談窓口 : ☎ **0070-800-8181-22**
: 【一般電話】 **03-5496-2986**
- カタログのご請求窓口 : ☎ **0070-800-8181-33**
カタログ請求とメールサービス登録のご案内 <http://www.pioneer.co.jp/support/ctlg/index.html>
- ファックス受付 : **03-3490-5718**

部品のご購入についてのご相談窓口

● 部品（付属品・リモコン・取扱説明書など）のご購入については、部品受注センターへお問い合わせください。

部品受注センター

受付 月曜～金曜 9：30～18：00、土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～17：00（弊社休業日は除く）

- 電話 : ☎ **0120-5-81095**
: 【一般電話】 **0538-43-1161**
- ファックス : ☎ **0120-5-81096**

修理についてのご相談窓口

● お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合は、修理受付センターへ（沖縄の方は、沖縄サービスステーションへ）

修理受付センター（沖縄県を除く全国）

受付 月曜～金曜 9：30～20：00、土曜・日曜・祝日 9：30～12：00、13：00～18：00（弊社休業日は除く）

- 電話 : ☎ **0120-5-81028**
: 【一般電話】 **03-5496-2023**
- ファックス : ☎ **0120-5-81029**

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付 月曜～金曜 9：30～18：00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

- 電話 : 【一般電話】 **098-879-1910**
- ファックス : **098-879-1352**

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

© パイオニア株式会社 2004

< KNNZX > < 04D00000 > < CRA3626-B >